

化学物質の管理

物質の特性を把握し密閉化を図り、適切な処置・分解を行い、環境への排出を極力抑制します。

2007年度の目標

塩素系有機溶剤3物質の大気排出量を2000年度比の50%以上削減する。
PRTR物質の大気排出量を2000年度比60%以上削減する。

塩素系有機溶剤3物質、PRTR物質の大気排出抑制

事業活動における塩素系有機溶剤3物質の大気排出量は1,545kg(前年度比-26.5%)で、2000年度比-54.9%となっています。また、PRTR物質の大気排出量は2,865kg(前年度比+2.3%)で、2000年度比-66.8%です。いずれも目標を達成しました。大気排出量の削減活動として、研究室での回収率改善を実施しました。

塩素系有機溶剤3物質の大気排出量(6事業場)



PRTR対象物質大気排出量(6事業場+3研究所)



PRTR物質

事業活動における取扱量は133,589kg(前年度比+38.8%)でしたが、大気排出量は2,865kg(前年度比+2.3%)でした。

2007年度取扱量(6事業場+3研究所)

(単位: kg、ダイオキシン類はmg-TEQ/年)

物質名	取扱量(kg)	排出量(kg)			移動量(kg)		除去処理量(kg)	消費量(kg)	リサイクル(kg)
		大気	水域	土壌	廃棄物	他事業場			
フェノール	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
アセトニトリル	26,934.9	166.1	0.0	0.0	26,532.4	4.7	231.7	0.0	0.0
クロロホルム	250.2	10.8	0.2	0.0	239.3	0.0	0.0	0.0	0.0
ジクロロメタン	14,535.2	2,218.1	0.8	0.0	12,296.4	0.0	19.9	0.0	0.0
N,N-ジメチルホルムアミド	3,662.2	69.4	0.0	0.0	3,476.2	0.0	116.6	0.0	0.0
エチレンジクロール	17,438.4	0.0	0.0	0.0	2,230.4	0.0	15,208.0	0.0	0.0
エピクロロヒドリン	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0
1,2-ジクロロエタン	202.3	3.7	0.1	0.0	198.4	0.0	0.0	0.0	0.0
ホルムアルデヒド	362.0	108.0	0.0	0.0	0.2	0.0	253.8	0.0	0.0
トルエン	22,874.8	191.2	0.0	0.0	22,668.6	0.0	15.0	0.0	0.0
キシレン	679.0	41.6	0.0	0.0	637.4	0.0	0.0	0.0	0.0
1-オクタノール	37,272.0	33.9	34.4	0.0	0.0	0.0	37,203.7	0.0	0.0
ピリジン	377.5	0.0	0.0	0.0	376.0	0.0	1.5	0.0	0.0
1,2-エポキシプロパン	121.0	0.6	0.0	0.0	120.4	0.0	0.0	0.0	0.0
ホウ素及びその化合物	80.5	0.0	0.0	0.0	78.7	0.0	1.7	0.1	0.0
ニッケル	7,555.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7,555.6
クロロジフルオロメタン	596.5	19.8	0.0	0.0	576.7	0.0	0.0	0.0	0.0
ヘキサメチレンテトラミン	55.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	55.0	0.0	0.0
モノクロロベンゼン	8.9	0.0	0.0	0.0	8.9	0.0	0.0	0.0	0.0
エチルベンゼン	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ベンゼン	12.7	0.8	0.0	0.0	12.0	0.0	0.0	0.0	0.0
塩化亜鉛	9.1	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0
四塩化酸素	3.2	0.4	0.0	0.0	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0
2-メトキシエタノール	727.1	0.0	0.0	0.0	727.1	0.0	0.0	0.0	0.0
総量	133,759.0	2,864.7	35.5	0.0	70,190.8	4.7	53,170.6	0.1	7,555.6
ダイオキシン類(mg-TEQ/年)	3.892	0.216	0.001	—	3.674	—	—	—	—

ダイオキシン類の排出抑制

焼却炉におけるダイオキシン類の測定結果は、すべて法規制値を遵守しています。2007年度は、3工場一般焼却炉の運転を停止しました。

PCB対応

PCBを用いたコンデンサーなどの管理(保管数量15台)については、定期的に点検を実施し、行政への報告を行っています。また、廃棄のための処理手続きを開始しました。

取り組み

ケミカルハザード対策

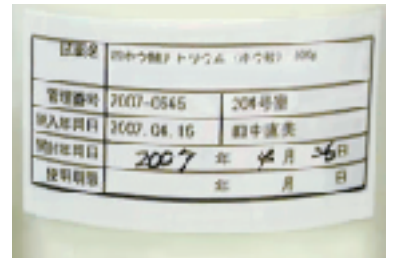
佐賀工場は、地域環境保護のために、酸・アルカリ・有機溶剤などの薬液の漏洩防止対策を積極的に行っています。法的に義務づけられた設備はもちろん、対象外の設備についても自主的に防液堤などを設置しています。また、工場敷地の雨水が工場外へ放流される箇所に、油水分離型の雨水マスおよび自動遮断弁を設けています。



冷媒回収エリアの防液堤 屋外冷媒タンクの防液堤 雨水マスおよび自動遮断弁

薬品管理

赤穂研究所は、眼科皮膚科に特化した生物グループと合成グループが同居した研究所です。各グループで用いる薬品が異なるため、管理は個々に行っていましたが、2007年4月よりシステムを導入し管理を一元化しました。在庫薬品はすべて登録し、新規購入時には、承認者を設け、ダブルチェックを行っています。納入時には業務室で登録とラベルの添付を行い、現在では所内すべての薬品の検索が容易になりました。



大気・水系への排出抑制

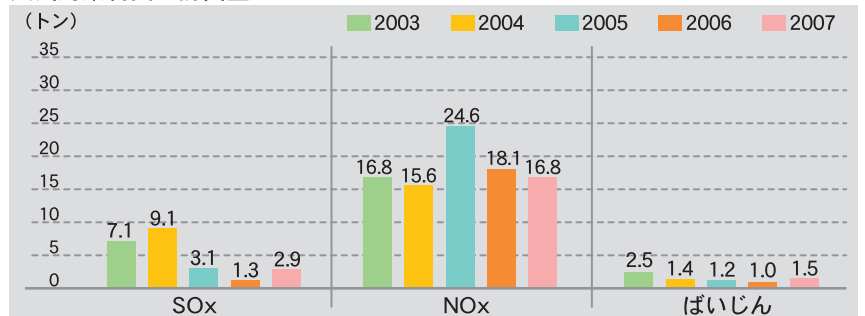
自主管理基準を設定し、環境負荷の低減を行っています。

大気汚染防止法、水質汚濁防止法などをはじめとする各種法規制を遵守するとともに、ボイラーの燃料転換、熱効率の見直し、活性汚泥処理への取り組みなどの自主管理を強化し、排出抑制に努めています。

大気汚染防止 (硫黄酸化物、窒素酸化物、ばいじん)

事業活動における硫黄酸化物排出量(SOx)は2.9トン(前年度比+123.1%)、窒素酸化物(NOx)は16.8トン(前年度比-7.2%)、ばいじんは1.5トン(前年度比+50.0%)でした。これは、新規製造ラインの稼動によるものです。

大気汚染物質の排出量



水質汚濁防止

事業活動における排水量は1,984千m³(前年度比+11.0%)、COD排出量は13.4トン(前年度比+26.4%)、SS排出量は11.1トン(前年度比+50.0%)でした。これは、新規製造ラインの稼動によるものです。

排水量とCODおよびSS排出量

